

令和2年度第2回御前崎市総合教育会議

日 時 令和3年2月18日（木）
午前9時00分～9時53分
会 場 御前崎市役所 301会議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協 議
 - ・御前崎市教育大綱の見直しについて
 - ・令和3年度 御前崎市教育計画について
- 5 閉 会

出席者名簿（敬称略）

市 教 育 委 員 長	柳 澤 重 夫
教 育 委 員	河 原 崎 全
〃	竹 田 和 世
〃	島 田 惠 美
御前崎市牧之原市	松 林 義 樹
学校組合教育委員	増 田 克 之
〃	原 崎 志 保
総 務 部 長	増 田 正 行
健康福祉部長	大 倉 勝 美
教 育 部 長	長 尾 詔 司
社会教育課長	小 野 田 明 人
学校教育課長	鈴 木 秀 和
教育総務課長	高 田 和 幸
教育総務課係長	川 村 美 穂

欠席者名簿（敬称略）

教 育 委 員	下 村 勝
---------	-------

○司会

開会に先立ちまして、互礼を交わします。お互いに礼。御着席ください。
ただいまから、令和2年度第2回御前崎市総合教育会議を開催いたします。
最初に市長あいさつ。柳澤市長お願いいたします。

○御前崎市長（柳澤重夫）

皆さんおはようございます。立春も過ぎ、2月も中旬過ぎましたが、朝夕はまだまだ寒い日が続いております。今朝は氷も張りましたが、そういう中で既に早咲きの桜も咲き始めまして、この時季は本当に自然界に生きる植物、そういったものの生命力の力強さといえますか、たくましさを感じる時季でもありますが、今日は第2回の総合教育会議に、教育委員のみなさんには本当にお忙しい中こうして御協力いただきまして、誠にありがとうございます。また教育委員のみなさんには日頃から学校訪問、また巡回をしていただきまして、本当に御指導いただいておりますこと、心から感謝を申し上げたいと思います。私も学校訪問して、今のところ北小学校と御前崎小学校、2校しかまだ行っておりませんが、教育委員の皆さんの協力が大変嬉しいというような先生のお話を伺っておりますので、また後ほど、そういった話もできたらいいなと思っております。

どうかよろしく願いを申し上げまして、一言、日頃のお礼の御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会

それでは、続きまして、教育長より御挨拶をお願いいたします。

○教育長（河原崎 全）

おはようございます。お寒い中、早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。

きのうまでは学校訪問、今年度2回目ということで、各校の訪問をしていただきまして、ありがとうございます。当市の場合には、小中学校合わせて7校ということで、小回りが聞くものですから、年2回、教育委員の皆様方の訪問ができるということで、なかなかこれは大きい市ではできないことだと思いますが、そういうおかげをもって、現場の先生方とか子供たちと教育委員の皆様方の距離が、大変近いのではないかと思います。

また、社会教育におきましても、その都度、御案内等申し上げて、現状等も報告をさせていただいております。おかげさまで教育行政も、何も問題がないわけではありませんが、年内にいろいろな学力面とか体力面、市民の皆様がたの文化面、スポーツ面での活動とかを見ても、向上しているなということを実感しております。

きょうは、総合教育会議ということで、教育大綱の見直しになりますが、向こう5年間、どのように市の教育行政を運んでということについての御意見をいただくことになってきますけれども、遠慮のないところで、普段お気づきのところを積極的におっしゃっていただければありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして、協議に入らせていただきます。協議内のほうは、市長に進行をお願いいたします。よろしくお願いします。

○御前崎市長（柳澤重夫）

はい。それでは早速ですが、御前崎市教育大綱の見直しについて説明をお願いします。

○教育長（河原崎 全）

それでは、私から説明をさせていただきます。

教育委員の皆様方には、11月に1度、御説明をさせていただいたところでございますが、新しい教育委員会制度が、2015年4月から始まりました。そこで教育委員、教育長等についての制度が変わったわけですが、その折に、各自治体で教育大綱を策定するというのも法律の中で決まっております。当市におきましては、2016年から25年までの10年間の市の総合計画ができておりましたが、それに合わせた形で教育振興基本計画も中身の整合性を持たせた形で作られました。市の総合計画につきましては、今年度、5年が経過したということで、今、見直しを図っております。その中の教育文化分野、スポーツ等も含めた中での分野ですが、こちらについては、教育大綱と重なってきます。この教育大綱も5年たちますと、新たな課題が出てきたり、最初に立てた目標等も達成したりということで、修正の必要も出てきたものですから、総合計画に合わせた形で、今年度、教育大綱も見直しを図らせていただくということで、案を考えてまいりました。1度、委員の皆様方には、1番元の案をお目通しいただいておりますが、今回お配りさせていただいた案はそこから若干変わっておりますけれども、それも含めた中でまた、きょうは御意見をいただければありがたいと思っております。

学校組合でございますが、こちらについては、前回、御説明したように、教育大綱は学校教育、社会教育、全てにわたっておりますが、学校組合の場合には、所管しているところが御前崎中学校だけになりますので、市の教育大綱の中の学校教育に関する部分について、学校組合の教育大綱という位置づけにさせていただければありがたいと思っております。

それでは、中身について説明をさせていただきます。

まず、御前崎市教育大綱修正（案）と、教育大綱修正前後比較表を御覧ください。最初に、修正案で御説明いたしますと、基本理念は、これは今までと変わりません。郷土を愛し、未来を創る人づくりとなっております。

基本方針でございますが、今まで、園、学校、家庭、地域と行政のスクラムと申し上げてきましたが、最近ですと、やはり地域の産業界でありますとか、ボランティアグループでありますとか、いろんな団体の方の活動も活発になってきたものですから、スクラムの中にあえて産業界、各団体という言葉を入れさせていただきました。が、スクラムを組み協働することによって、1つ目は子供が対象になりますが、思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子供が育つ。2つ目は市民が対象になると思いますが、生涯に渡って共に学び続け、互いに高めあう市民が育つというような2点を大きな方針といたしました。今までは、人づくりという、人をつくるという言葉が使われていましたが、やはり私たちが人をつくるというよりも、子供たちとか市民の方が育っていく、自分で育てていく、それを行政が支援をしていくスタイルのほうが自然だと思いましたので、子供が育つ、市民が育つという言い方にさせていただきました。たくましくしなやかなというのは、ちょっと相反する言葉じゃないかという御意見もいただいたことがありますが、これについては、最近よく使われるレジリエンスという言葉が、回復力みたいな意味で使われていますが、強靱で弾力に富むということで、強いけれども困難にあって負けてしまってポキッと折れるのではなくて、そこで、もうひとつ粘り強く頑張れるという意味でしなやかさを使わせてもらいました。

具体的な重点施策になりますが、1つ目は、子供が育つ基盤づくりを進めます。こちらは今までと変わりません。皆様にお配りしたものでは最初、スクラムによる園、学校、家庭、地域の教育力の向上とありましたが、きょうお配りした訂正というプリントを御覧いただきますと、園、学校、家庭、地域のところは、先ほど申し上げた産業界、各団体等も入れたものですから、市全体の教育力の向上という言い方に変えさせていただきました。この（１）については、市の教育についての基本スタイルを示そうという考え方でおります。コミュニティスクールを推進するとか、スクラム総がかりで地域の特徴を生かしながら、子供たちや市民が育つ環境をつくるというような意味合いでおりますので、（１）の丸の２つ目のゲーム障害、ネット依存の防止については、これは具体的な取り組みですから移動をさせて、（２）の丸の３つ目、青少年リーダー育成事業の次のところに、ゲーム障害、ネット依存の防止を移させてもらいたいと思います。ですので（１）は丸が２つ、（２）は丸が４つという形になります。（２）の人としての根を養うための市の特色を生かした教育の推進、ここが１番の売りといいますか、ポイントになるのかなと思っておりますが、１つ目は、読書、読み聞かせについてです。子どもたちが本と親しむまち御前崎を目指して、読み聞かせ、読書を推進するということで、ここも健全な心と最初はありましたが、読書は健全な心だけではないものですから、豊かな心という言い方に訂正をさせていただきたいと思います。読書については、私もここにお世話になってから力を入れてきたつもりであります。例えば、学校図書館の実績で申し上げますと、2016年度に小学校の学校図書館の１人当たりの貸出冊数は８冊でした。年間の貸出冊数１人８冊が2016年です。それが、2019年度は、１人当たり23.4冊になっています。５年前の2016年が８冊、昨年の2019年が23.4冊ということで、３倍に増えています。学校司書の人数を増やしたなどということもありますが、学校も力を入れてくれております。また、今回、完成します浜岡中学校の新校舎も、学校図書館を建物のメインに据えております。ですので、今度は、中学校も図書館の利用を増やしていきたいと思っております。また、アスパルについては、市民１人当たりの貸出冊数が、県内の市町の中で圧倒的に１位ということで、それをずっと続けております。ですので、やはりこの読書については、市を挙げた１つの取り組みの特徴にしていきたいと思っておりますので、ここに挙げさせていただきました。

２つ目は、新聞にもたびたび取り上げていただいておりますが、御前崎クエストです。子供たちが自然体験活動をしながら、リーダー育成事業をするという活動ですが、こちらについても御前崎の自然を生かした取り組みということで、本だけではなくて、自然と子供たちが親しんでいくことも重視していきたいと思えますし、小学生全員が、今、体験しております海洋体験活動、これも当市ならではの活動ですので、力を入れていきたいと思えます。

３つ目として、先ほど申し上げた、上の項目から移動してまいりましたゲーム障害とネット依存の方針、これは、これからというか、今も大きな課題になっているものですから、タイムリーなものだと思っています。特に、ＩＣＴが進んでくると、それを取り入れる必要がある一方で、この弊害というものも考えていかなければいけないと思えますので、３つ目に入れさせていただきました。

４つ目としては、今までも続けてきているスクラムグッドマナー運動ということで、この４つが、当市の特徴、売りになる取り組みだと思っています。次に、大きい２番につきましては、スクラム・スクール・プラン、園から高校までの途切れのない教育で一貫性のある教育を推進するということで、これは今までと変わりません。（１）は、園の教育についてですが、今までと同じです。（２）につきましては、変化の激しい今後の社会を生き抜くための知・情・意の育成とさせていただきましたが、知・情・意がなかなかわかりづらいのでは

ないかというような御意見もちょうだいいたしましたので、ここを資質・能力という言葉に変えさせていただきました。今後の社会を生き抜くための資質・能力の育成ということです。その丸の1つ目ですが、これは最初に委員の皆様方に御提示したときには入れてなかったのですが、今回新たに入れました。互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育を推進しますということで、今までは学力、体力が中心でしたが、やはりその前にお互いを思いやる、尊重する。特に、最近ではいじめでありますとか、コロナに関連しての誹謗中傷等もございます。情報モラルの心配もございます。また、性差別とか、そういうことも今、社会で話題になっているものですから、やはりみんなが安心して生活するという点では、この人権の尊重というのは、やはり、いの一番におくべきではないかということで御意見もちょうだいいたしましたので、これをまず入れさせていただきました。2番目は、学力に関することと、あと主体的に人や社会とかかわる力です。3番目が、体力の向上、そこにもう1つ、健康課題への対応というのを、入れさせていただきました。これについては、当市の子供たちに限りませんが、全国的な傾向で視力が落ちている子供が増えているであるとか、当市の場合には、歯の治療を必要とする子供が他市に比べて多かったとか、そういうような、健康に関する課題もあるものですから、健康課題への対応を入れさせていただきました。3番目については、不登校とか特別な支援を必要とする子供たちへの対応ということでございます。4番目。1番下になりますが、こちらは1人1台端末が整備されてきましたので、それをどのように効果的に活用していくかということのを挙げさせていただきました。裏に行ってくださいまして、(3)につきましては、教育環境の整備ということで、浜岡中学校の校舎の建築がほぼ終わろうとしております。次の課題としましては、御前崎中学校関係もありますけれども、学校再編計画、またそれに合わせて、市内の各学校の校舎等も老朽化が進みつつあるものですから、そちらをどういうふうに改修していくかということも大きな課題になっております。来年度から、その検討委員会等も設置する計画になっておりますので、入れさせていただきました。あと2つ目については、1人1台パソコンを入れて終わりではなくて、ずっとこれから続いていくものですから、その点も引き続き入れてあります。(4)については、学校給食の関係です。新しい学校給食センターが7月に完成予定ですので、それをどういかしていくかということ、また、そこから地場産の食材をいかに活用していくかという、またこれも今までどおりの課題があるものですから、入れさせていただきました。

次に、大きい3番については、これは社会教育の関係になります。自分とみんなの学びによって地域の活力となる学びの循環をつくり出すということで、これは生涯学習基本方針を策定いたしましたので、それに合わせた文言になっています。社会教育課で、現在、おまえざき学びの航海図ということで、人生、ライフステージごとにどのような学びの機会があるかという、その図を現在作成しておりますので、またそういうものを市民の皆さんに、提供しながら、生涯学習講座等を設定していくというような予定になっております。(2)については、図書館でございますが、アスパルは、サービスとしては県下でトップのサービスを展開しております。そういう中で、子ども読書推進計画も本年度、策定いたしましたので、またその具現化に取り組んでもらうということで挙げてあります。(3)についてはスポーツの振興ということで、こちらは文化もそうなのですが、団体、スポーツ団体が主体となった活動を支援していくというような形で、市民の方が主体となって動いていけるよう行政が支援してそういうスタイルを進めていきたいと思っております。(4)については、文化芸術の継承と振興、文化財の保護と活用ということで、こちらスポーツと同様、団体の方が主体となった活動を支援していくスタイルを確立していきたいと思っております。文化財ですが、市民みんなで大切に守っていけるよう、また、後世に繋いでいけるように子供た

ちが文化財に親しむ機会等を増やす、それがまた郷土への誇りに結びついていけばいいなと思っています。あと、ウミガメも御前崎市の特徴でございますので、こちらについても大事にしてきたいということで、以上の形で、新しい教育大綱、修正したものを考えさせていただきました。私からは以上でございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

ただいま、この修正案につきまして、説明があったわけですが、この修正案も含めて、皆さんから御質問でありますとか、御意見を伺えればと思いますので、よろしかったらどうぞ。

○教育委員（竹田和世）

1つよろしいですか。

○御前崎市長（柳澤重夫）

はいどうぞ。

○教育委員（竹田和世）

文章表現のところで揚げ足を取るつもりでは全くないのですが、裏面に教育用 I C T 機器の導入を推進しますとあって、先ほど教育長さんから、これは決して入れておしまいではないと御説明があったのですが、きのうの北小の学校訪問に行ったときにも、御前崎市は市長さんのお計らいが具現化しているということで、I C T、政府の G I G A スクール構想が本当にすでに実現しているという話も校長先生からありましたが、私もこの導入を推進するということは、もう目標として頑張るところではないのかなと思いました。それよりも私は、むしろ気をつけていかななくてはいけないのは、教育の中の I C T の活用の仕方ではないかと思います。要するに、学校というところは集団生活をするところで、1人ではないからこそ育まれるもの、1人ではないからこそ相手を思いやるとか、1人ではないからこそ我慢をする自制心であるとか、人に認められるから自分が頑張ろうとか、自己肯定感を持つとか、そういうところ全てを含めて教育理念ですので、そういうところにも I C T をいかしていかななくてはいけないのではないかと思います。メソッドとして、教科書とか副教材とか、楽器なんかもあると思いますけれども、単にメソッドとしてではなくて、スキルを学ぶ。そこで止めておくのではなくて、やはり子供たちが目を輝かせて向かって行けるという教育的なところに、それをすごく生かしていけたらいいのではないかなと思います。やはり1番は置いてきぼりの子を作らないというところで、I T C が活用できることというのは、学習のつまずきの発見が早く、習熟度に合わせた学習支援を強みとするということを言われている方がいらっしゃって、本当に教育として生かすというところでは、つまずきの発見を早くしてあげる、先生がそれに対して早く手当てをしてあげるという、I C T をメソッドとしてだけではなくて、教育的にうまく生かしていけるといいなとそうした時に導入の推進っていうところだけではなく、もっと深い意味合いを込めていけるといいのかなと。表現だけじゃなくて、意味合いのところですけども、そんなふうに思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫）

教育長、どうぞ。

○教育長（河原崎 全）

ありがとうございます。竹田委員さんがおっしゃられたこと、十分理解できます。この（３）のところは、今、おっしゃった部分です。ここが標題といいますか、小見出しが教育環境の整備ということになっていきますので、私の言葉がちょっと足りなくて申しわけありませんでした。ＩＣＴ機器というのは１人１台パソコンだけではなくて、それに付随するものも含まれてくると思いますが、そういうどちらかというとハード面での整備になっていきます。今、竹田委員さんがおっしゃられたものについては、表面の１番下の部分ですが、情報機器の効果的な活用・実践というところが、その機器をいかにうまく使って子供たちの教育に生かしていくのかというソフト面での話になりますので、そちらでカバーしていければいいのかなと思っております。

○御前崎市長（柳澤重夫）

よろしいでしょうか。

○教育委員（竹田和世）

すみません、ありがとうございます。ただ、本当にまだ、まずはスキルでしょうね。それからですから、本当に大変だと思います。

○教育長（河原崎 全）

焦らないように、やっていきたいと思っています。

○教育委員（竹田和世）

ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

他にいかがでしょうか。

今、ＩＣＴ機器の導入を推進すると言いましたね。その前に、それを活用した研究実践をすると書いてあるので、ＩＣＴ機器を先に導入してから、こういうことをするというのが、順序としてはいいのかなと。逆のほうがいいと思います。

○教育長（河原崎 全）

物を入れてからということですね。

○御前崎市長（柳澤重夫）

ＩＣＴ機器を導入して、その後に、教育長が言った情報機器を利用し、活用した教育といったものをソフト面としてやって行きますというほうが、順序としていいような気がします。

その他の思ったことや気づいたことを言っていただければと思います。

島田さん、どうぞ。

○教育委員（島田恵美）

先ほども教育長からお話があったように、子どもたちが本と親しむ御前崎という目標を掲げて、力を入れてくださっているのですけれども、本当にそれが徐々に浸透して、目に見える成果につながってきているのではないかなと思います。スクラムスクールのほうも、早

寝・早起き・朝ごはんを続けることによって、子供たちの生活習慣が変わってきていると思いますが、本を読むということも、本当に生活の一部になるといいなとすごく思っています。中高生が、なかなか本に親しむ機会も今までなくて、いざ本を読むときに、どんな本がいいですかと聞かれたときに、初めから難しい本を読めないという子が多いらしいんですよ。だから、小さいころの読み聞かせ、本に親しむことが習慣になっていくということが、とても学力のほうにもつながっていくと思います。それを、この御前崎市で挙げてやっていこうというところが、すごくいいなと思います。それを当たり前の生活にしていくっていう必要をすごく感じるので、ここはもう本当に力を入れてやっていってほしいなと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）

ありがとうございます。この市についてはわからないけれども、各自治体の学校現場の中では、朝の授業のまず 10 分間は読書というような、それから 1 日がスタートするというようなことも、あるようなことも聞いていますので、そうした習慣づけですよ、読書の。いつも本を読むということの習慣づけが必要で、ただ読みなさいよと言ってもなかなか読むものではありませんので、間違いなくそういった時間をとるといえるか、カリキュラムの中に入れるということも、1つの読書を習慣づけるきっかけづくりにはなると思います。そういった取り組みは、この学校教育ならではの取り組みなものだから、考えてもいいと思うんですよ。その辺は、おっしゃられる通りだと思っています。それは教育長も今、聞いているので。本当に読書というのはもう、読み出すとのめり込んでしまうというような本もあって、いろんな本を読むというのは本当に大切なことです。そういった肉付けをするという意味では、本当に大事だと思います。読書の習慣づけをするようなことも、教育現場の中で考えていただければいいかなと思います。御前崎の教育の中では、やれば 1 番目玉になるような、そんな感じもするものですから。

他に、どうか忌憚のない御意見をいただけたらと思います。皆さんの御意見によっては、修正したものをまた更に修正して、これをまとめたいと思います。よろしいでしょうか。

どうですか、先生方。

○教育委員（松林義樹）

何度か事前に見せてもらっていたのですが、新しく見るたびに改善されている部分があって、本当に練られているのだなということを感じました。

今、この文面にはないのですが、教育長さんの話の中で、2の（2）の下から2番目の○、個にきめ細やかに対応する教育体制というところで、不登校や特別支援学級の児童生徒に対してという発言がちょっとあったのではないかなと思うのですが、これは、そういう子供たちだけでなく、全児童生徒に係わってきているものじゃないかなということを感じました。そこに何も表現がないものですかいいのかなと思うんですけど、それに合わせて、不登校の生徒や特別支援学級の児童生徒に対しても、やはりより厚いというか、対応を推進していくような意味合いではないのかなということを感じました。

○教育長（河原崎 全）

ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

それはいいですか。

○教育長（河原崎 全）

承知しておきます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

原崎さん、いいですか。

○学校組合教育委員（原崎志穂）

では一言だけ。ありがとうございます。すごく丁寧に作成されていることがわかります。御前崎市全体が市民を大事にして作られている案じゃないかなと、すごく文面とか、市長さんのお話を聞いて感じ取ることができます。すごく素晴らしいことだと思います。行政中心の市ではなくて、市民中心の市を作りたいという思いが出ている文章だと思います。

読ませていただきまして、ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

増田先生よろしいですか。

○学校組合教育委員（増田克之）

基本方針の中に産業界と各団体っていうのが入ってきたということで、私も見させていただいて、御前崎クエストもそうですし、園、小学校、中学校へも、商工会を中心にしたりして、またいろんな産業の団体の方がボランティアとして来ていただいて、御前崎市の子供を育てようという強い思いを持ってやったださっているということが、本当にありがたいなと、そして今度こういう文面が入ってくることは非常にいいことだなと思っております。

それと、教育長さんのお話にも読書の推進ということでありましたけれども、これも県の方針にも、かなり強く入っていたと思っています。確かな記憶ではないのですが、どこかの高校の野球部でしたか、21世紀枠なんかで甲子園へ出場した学校なども、読書することによって競技力と心を鍛えているというような報道もあったと思っていますが、ぜひ、この御前崎市の子供たちも、活字離れがずっと長く言われていますので、本を読むことによって、豊かな心を育ててほしいなと思っております。

○御前崎市長（柳澤重夫）

ありがとうございます。今、皆さんからも読書でありますとか、様々な御意見が出ましたが、教育長よろしいでしょうか。

○教育長（河原崎 全）

ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

この修正につきましては、皆様の今の御意見も踏まえて修正をしてまいりたいと思います。この修正案につきましては、御承認をいただくということでよろしいでしょうか。

○教育委員（竹田和世、島田恵美、松林義樹）、学校組合教育委員（増田克之、原崎志穂）
（修正案に異議なし）

○御前崎市長（柳澤重夫）

ありがとうございます。これにつきましては、今、お話があったことも含めて修正をしていきたいと思います。また直すところがあれば、後日、教育委員の皆様にお示しをしたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

また、今、修正をしました教育大綱であります、教育振興基本方針と別立ではなくて、この教育大綱と教育振興基本計画といったものを一緒に組み合わせたものにしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。別立てでなく、それも盛り込んで教育振興基本計画にしたいと思います。そちらも、御了解をいただきたいなと思っております。

○教育委員（竹田和世、島田恵美、松林義樹）、学校組合教育委員（増田克之、原崎志穂）
（案に異議なし）

○御前崎市長（柳澤重夫）

それでは、今後の流れにつきまして、教育委員会からのお話をお願いします。

○教育長（河原崎 全）

ありがとうございました。今後でございますが、パブリックコメントを募集したいと思いますが、こちらにつきましては、冒頭申し上げた市の総合計画で既にパブリックコメントを募集しまして、その中で1点、御意見もちょうだいしたものですから、それも含めて、改めて2月末から3月にかけてパブリックコメントを募集したいと思います。もう、一度お示ししてあるので、それほど大きなものはないのかなと予測をしております。それで、3月の教育委員会の定例会のときに、最終的なものをお示しさせていただきたいと思います。その後、市長の決裁をいただいて、4月1日から公表していくというような流れでいきたいと思います。法律の中に、制定したら市民に公表しなくてはならないというような文言もあるものですから、4月以降、ホームページ等によって、市民の方々にお知らせをしていく形をとっていきたく思っております。以上でございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

ありがとうございました。それでは、令和3年度御前崎市教育計画の説明をお願いします。

○教育長（河原崎 全）

もう1点、お願いします。こちらは説明のみというような形になります。あと本日、お配りした資料として、令和3年度御前崎市学校教育案と、令和3年度御前崎市社会教育案というものがございます。来年度の学校教育及び社会教育につきましては、きょうお配りさせていただいた図のような形で進めていきたいということで、現在、考えているところでございます。その中で、特に重点としての取り組みを、皆様がたに事前にお配りした資料でさせていただいております。これについては、継続のものが多くです。やはり簡単に解決しないというものがあります。なおかつ、新しい課題が次から次というところとちょっと言い過ぎですが、増えているものですから、項目が増えてしまって恐縮なのですが、本日は重点取組（案）というものを御覧いただきたいのですが、この中で新規のものについて申し上げます。

まず、6番のところですが、先ほども申し上げましたが、新規として、互いの人権を尊重し思いやりを大切にする教育への取り組みというものを入れさせていただきました。読み上

げますと、いじめは絶対許されない行為であるという共通認識のもと、実際的な校内研修の実施、いじめの早期発見、早期解決、いじめ防止のための児童生徒の主体的な活動の指導等に取り組みます。特に新型コロナウイルス感染症関係者への偏見差別、誹謗中傷の防止の徹底と情報モラルの向上に努めますということで、これを新しく入れさせていただきました。

続いて裏面になりますけれども、9番のところでございますが、こちら先ほどの教育大綱のほうに入れさせていただきましたが、1人1台端末の効果的な活用ということで、ICT支援員の派遣拡充、こちらについては当初予算案にも、盛り込んでいただいております。教職員の研修等によって、GIGAスクール構想御前崎3か年計画を学校教育課が作成しておりますので、その計画に沿った形で、1人1台端末の効果的な活用を進めていきたいと考えております。

11番の学校再編計画の検討ということで、これについても先ほど申し上げましたが、市内小中学校の適正な教育環境を整えるために、検討委員会を設置して、御前崎中学校関係だけではなく、市内の小中学校全てを対象として将来を見通した学校再編の計画の検討を進めていきたいと思っております。

12番が新しい学校給食センターの円滑な稼働ということで、まず予定どおり完成することが大きな課題ですけれども、そこからいかに新しい機能を生かして、子供たちに喜ばれる給食を提供していくことが大きな課題だと思っておりますので、入れさせていただきました。

13番につきましては、ライフステージごとの学びの提供ということで、こちらについても、先ほど申し上げましたが、現在作成中のおまえざき学びの航海図を完成させて、それをもとに市民の方々が、生涯学習の機会が与えられ、またそれぞれ活動できていくように、その整備に取り組んでいきたいと思っております。

次に15番の各文化施設のあり方ですが、ここに「の検討」という言葉を入れていただきたいと思います。各文化施設のあり方の検討ということで、現在、市民会館と文化会館の2つの文化施設がございます。こちらについても似たような施設なものですから、やはりこれからの施設の効果的な利用ということを考えていきますと、現在も老朽化が進んでいるものですから、その施設をどのように考えていったらいいかということについて、来年度、検討していきたいと思っております。

16番は、これは、ワクチンの接種等もまたこれから始まっていくわけですが、依然としてコロナウイルスについては学校だけではなく、社会教育の面でも活動が今、制限されている状況がございますので、やはり、学校教育の中でも、社会教育の中でもコロナというものの影響がありがちなものですから、それに対して、やはり感染が広がっていかないように高い意識を持ちながら、また先を見ながら、事業を展開していかなくてはいけないと考えております。

以上のところが、新しく入れさせていただいたところでございます。ちょっと多めの17本ほどあるのですが、こういうところを来年度意識しながら、教育行政のほうを進めていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）

今、教育長から説明がありましたが、委員の皆さん、何か御意見等ございましたらお願いしたいと思います。見ると、全て網羅しているような感じがして、素晴らしい重点取組だと思います。よろしいでしょうか。こういった目標を掲げて取り組みをしていくということですから、松林先生、どうぞ。

○教育委員（松林義樹）

ひとつ、すみません。6番のところで、互いの人権をというところに、特に新型コロナウイルス感染症関係者という文言が出ているんですが、それを、そこに入れたほうがいいのか、16番の新型コロナウイルス感染症拡大への対応というところに入れたほうがいいのか。16番かなと思ったのですが、その横に教育大綱、総合計画に関係記載なしって書いてあるものですから、このなしというのは、記載しないってということですか。

○教育長（河原崎 全）

すみません。説明が言葉足らずで申しわけなかったのですが、先ほど申し上げた教育大綱は、特にコロナというのが項目にないものですから、ここには、なしということにさせていただきました。

○教育委員（松林義樹）

どちらへ入れたほうがいいのかなというのが、ちょっと気になりました。

○教育長（河原崎 全）

はい。承知しました。

○御前崎市長（柳澤重夫）

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。これについては、承認とかそういうのはいいですね。ありがとうございました。

これで協議事項は終了ですが、全体を通して、御質問でありますとか、お気づきの点があったらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

私も冒頭に申し上げましたが、全ての小中学校を訪問して、全ての先生がたと懇談をしたということで申し入れまして、浜岡北小学校と御前崎小学校だけは去年のうちに回りました。小学生1年生から6年生の担任、教頭、校長、全て出て、両方とも話をさせていただきました。その中で、先生方から、教頭からですか、教育委員が大変協力的でうれしいという話もありましたので、まずお伝えをしたいと思います。そういった中で、子供たちが素朴といますか、素直というか、そういったことも各学校からの先生の意見として聞かれました。

北小からは、ぎゅうぎゅう詰めスクールバスで困るということがありましたので、それはもう既に改善していただいたと思いますが、そういった困ったことがありますとか、子供たちともっと触れ合う時間を欲しいというような先生方の御意見もありました。これは、先生がたが、これからICT教育の中で時間ができたら、そういった触れ合う時間も少なからず増えるのではないかと思いますので、学校独自でそういった研究をしていただければなと思っております。また、子供さんについてはすごく先生がたが褒めるんですね。1年生から6年生の先生がたが言った、そういったことを全部書いて帰ってきました。大変ありがたいと、デジタル教科書のようなことは支援がありがたいとか、そういったことも北小のほうでは言っていました。

御前崎小学校へ行ってですね、1年生から6年生の先生がたと一緒に教頭と校長がいましたので、校長がいてしゃべりにくかったら出てもらいますよ、校長と言ったら、先生がた皆さん笑って、いいです、いいですと言って、先生と校長先生とも大変いい雰囲気の中で話ができるというのは、教育現場として雰囲気が本当にいいなということも感じました。御前崎

の小学校でも、支援が多くて助かりますとか、先ほど言いましように、子供たちが素朴で、親たちも協力的だというようなことも言っておりました。大変、子供たちのことも褒めているし、教育環境というか、そういったこともいいなというふうにも感じました。ですので、これからも学校と家庭地域が1つになって、教育をやっていただくことがまず大事ではないかなと思います。学校だけで、教育現場だけで教育がなされるものではないと思いますので、これから地域を巻き込んだ、今回の修正にもありましたけど、企業までを巻き込んだ地域の教育力、それをやってほしいなと思います。

私、いつも年が古いものだから思うことですが、1979年にイギリスのサッチャー大統領が就任して、その2年後の1981年にアメリカのレーガン大統領が誕生して、平成18年に第1次の安倍政権が発足したのですが、この3人が就任して何をまずやったかということ、教育改革なんですね。1番手を付けていないこと、1番最初に手を付けたのは、教育でした。安倍政権も平成18年に発足してすぐ地域の教育力というものを、教育基本法第13条に盛り込んだということで、本当にどこの国でもどこの地域でも、教育の大切さというものは、みんな分かっていると思っています。ですので、教育の基本をもとにして、これから教育委員の皆さんと一緒に、地域を巻き込んだ教育をやってほしいなと思います。私たちが育った教育のときとは、まったく違ってきます。特にICT教育のような情報教育が入ってきますので、それがこれから社会に生きていくために大変重要なツールだと思います。しかしながら、基本的には、この人間社会を生きていくための子供たちを育てるのが、社会へ通用するような人間を育てるのが教育の役目ですので、思いやりという言葉も今度はいりましたが、優しさ、人に対する思いやりのある子供たちに育てて、人間教育が教育現場でも大変大事ななと私は思いますので、ぜひとも教育委員の皆さんには、先生がたと一緒に、これからも御前崎の教育をやってほしいなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○司会

ありがとうございました。それでは、協議を終了させていただきます。

本日は、ICT、読書関係、たくさんの御意見をみなさんからいただきました。ありがとうございました。今後も本市の教育長のもと、次の施策に取り組んでいきたいと思っています。

それでは、以上で、令和2年度第2回総合教育会議のほうを終了いたします。最後に互礼を交わしたいと思います。相互に、礼。どうもありがとうございました。